

令和3年度学校自己評価システムシート (県立浦和東高等学校)

目指す学校像	確かな人間力と教養を育み、生徒一人ひとりが自己の探究と実現ができる学校
--------	-------------------------------------

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 学力の向上をめざし、授業改善と主体的な学習習慣の確立を進める。 2 自律心と規範意識を高める生徒指導と学習及び部活動の環境整備を進める。 3 自己探究により進路意識を高め、進路希望の実現率を高める指導を進める。 4 保護者・地域連携と情報発信を充実させ、開かれた学校づくりを推進する。 5 ICT活用指導力の向上とICT環境の整備、学校教育活動のデジタル化を進める。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	
学校関係者	5名
生徒	3名
事務局(教職員)	13名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	①学習指導要領改訂を見据えた授業改善により確かな学力の向上を図る。 ②授業以外での主体的な学習習慣の確立を図る。	①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。 ②学習と部活動を両立させる。	①・年次研修対象者、未来学び研究者をはじめ多くの教員による積極的な授業公開の実施。 ・生徒への授業評価アンケートの実施。 ・校外で開催される各種研修会への参加。また、そこの学びを還元した授業実践と研修受講報告会の実施。 ・ICTを活用した授業展開について授業見学や意見交換の実施。 ②・Classiを活用し、学習時間、特に家庭学習の時間を確保する。 ・部活前後の学習室の積極的な活用を促進する。	①・主体的・対話的な展開の授業を取り入れられたか。 ・生徒による授業評価アンケートの結果から授業改善の成果が見られたか。 ・ICTを活用して授業を行うことができたか。 ②・授業以外の学習の時間が増えたか。 ・学習室利用者は増加したか。	・学校評価アンケートにおいて、「興味・関心・意欲を引き出す授業をしている」そう思う166人(18.7%)どちらかというと思う530人(59.7%)の合わせて約78.4%であった。 ・生徒の学校評価アンケートにおいて、授業以外の学習が習慣化(毎日1時間以上)している生徒は、昨年の33.7%より低下し、そう思う90人(10.1%)、どちらかというと思う185人(20.8%)の合わせて約30.9%であった。	A	・新学習指導要領の改訂に伴う新教育課程への移行を円滑に行う。 ・授業公開期間における積極的な授業見学と意見交換の方法について再検討し、改善を図りたい。 ・例年3割程度の生徒が学習を習慣化できているが、その他の生徒の改善を図れるよう、生徒が習慣的に学習するような指導方法を検討していく。
2	①遅刻、交通事故件数ともに減少させることができているが、ゼロではない。TPOを意識した言動や行動ができていない生徒が少なからず存在している。自律心と規範意識を高める指導を進める。 ②環境整備を進め生徒の活動意欲を喚起するとともに安心・安全な学校づくりに努める。	①交通ルールの周知徹底と基本的な生活習慣の確立に取り組む。 ②心身の健康、危機管理に対する意識向上を図る。	①・定期的な立哨指導の他、危険地点での立哨指導の回数を増やす。 ・遅刻、交通事故防止の観点から10分前登校を促す。 ・教員からの積極的な投げかけによって、生徒がTPOを意識した言動、行動について考え、行動する機会を増やしていく。 ②・生徒保健委員会、学校保健委員会を通じて本校生徒の保健課題を検討し、関心を高める。 ・応急手当講習と防災訓練のつながりを意識する。	①・遅刻、交通事故件数の推移 ・指導部による日常の学校生活での観察や、担任、教科担当、部活動顧問との情報共有。 ②・保健課題解決に向けた委員会を開催できたか。 ・応急手当と防火防災のつながりを意識した活動ができたか。	・交通事故は前年度から1増の13件であった。TPOを意識した行動ができる生徒が増えてきている。(整容面が特に良くなってきている) ・「感染症の取り組みに関するアンケート」「防火防災訓練の改革」を通じて、生徒および教職員の危機管理の意識は大きく向上した。	A	・継続して立哨指導を行っていく。学期の集会だけでなく、日常の声掛けや臨時の集会などでも積極的に投げかけていく。 ・新たな本校の保健課題をあぶり出し、全校生徒の問題として議論し、解決へと導く。
3	①多岐にわたる生徒の進路を実現させるとともに、多様化する入試制度に向けて、計画的・系統的な進路指導を実践する必要がある。 ②新しい入試制度に対応できるような資質・能力の養成に努める。	①個々の進路実現を踏まえ、多面的に指導にあたる。 ②「学力の3要素」に基づいた進路指導を行う。	①・スタディサポートや実力診断テスト、各種模擬試験等を実施し、生徒の進路意識を高める。 ・classiを活用し、日常の学習活動や実力テスト等の事前・事後学習に役立てる。 ・個々の進路希望に応じて、進路補講や面接・小論文指導を行う。 ②・SD「総合的な探究の時間」等を活用し、生徒が主体的に自分の将来について考え、自らの意思を発信できる能力を養う。 ・分野別説明会や進路レポート等を活用し、進路実現に必要な情報を収集し、課題解決に向けて努力する姿勢を養う。 ・チャレンジ検定等を活用し、資格・検定試験の受験を推進する。	①・進路行事、進路結果満足度は90%を超えたか。 ・スタディサポートや実力診断テストを進路指導に上手く活かしたか。 ・GMARCH以上の大学合格者を輩出、4年制大学進学者6割程度、民間就職100%を実現できたか。 ②・探究活動やガイダンス等を通して、主体的に考え、自ら発信する力を伸ばすことができたか。 ・より多くの生徒が資格・検定試験に挑戦し進路に活かすことができたか。	・進路結果満足度は96%。 ・スタディサポートや実力診断テストでは、事前の課題配信や評価に加えることで意識が高まり、前年度より成績が上昇した。 ・GMARCH以上1名、4年制大学合格者は176名、公務員採用2名、民間就職や7名で就職内定率は100%であった。 ・探究活動や各種進路ガイダンス等を通して、主体性や協働性といった能力を養い、自らの将来について積極的に考える機会が増えた。 ・チャレンジ検定を通して、資格・検定試験への意識が高まった。	A	・入試改革による試験内容の変更に対応できるよう、情報収集を行い、随時生徒に提供することで早期入試対策に努める。また、学校推薦型・総合型選抜の日程変更に伴い、計画的な受験準備を促す。 ・面接・小論文等を必要とする生徒の増加に伴い、適切な指導体制を確立できるよう検討する。 ・多面的な指導を行い生徒の進路意識を高めつつ、上位大学への合格者を増やすための対策を検討する。
4	コロナ禍における学校説明会等の実施方法を工夫し、本校の魅力を積極的に発信する。	開かれた学校づくりを推進する。	・安心・安全に配慮した年4回の学校説明会・部活動体験等の開催。 ・校外で開催される高校説明会等への参加。 ・HPを改善するとともに、学校行事等のリアルタイム更新による情報発信。 ・地域活動への積極的な参加。	・安心・安全に配慮した年4回の学校説明会・部活動体験等の開催。 ・校外で開催される高校説明会等への参加。 ・HPを改善するとともに、学校行事等のリアルタイム更新による情報発信。 ・地域活動への積極的な参加。	・概要説明等についてはHPのトップに動画を掲載するなど工夫した。 ・相談会等の実施方法について、参加者を分散させて実施できるよう見直しを図った。 ・学校行事・部活動等について、リアルタイムにHPにアップするなど、情報発信した。	A	・学校説明会において本校の良さを感じてもらえるようプログラム改善を検討していく。 ・HPの更新について、教務部の担当者以外でも学校行事等を積極的に配信できるような仕組みづくりを検討する。
5	授業等におけるICTを活用できる環境が整っていない。	ICT機器と無線LANが効果的に活用されるよう環境整備する。	・投影に関わる周辺設備を整える。 ・クラウドサービスを用いたデータ共有や活用初期段階の具体的な事例を共有する。	・設備の整備を進めることができたか。 ・日常的にICTを活用した授業を行った教員の割合が増加したか。(前年度は12.4%)	・タブレットの初期設定・管理運用ルールを策定した。双方向型オンライン授業の実現に一助した。 ・Wi-Fi接続人数は延べ306人であった。教育活動における生徒のBYODを推進した。	A	・教員用タブレットの拡充や教室の視環境改善(ホワイトボード化など)を管理職通じ、県への要請をお願いする。

学校関係者評価
実施日令和4年3月2日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>コロナ禍の中、ICTやオンラインを活用しての授業展開は、社会状況に応じて素早く対応されており、学びの継続という面では評価できる一方、機器を介しての授業によりコミュニケーション不足とならないような配慮も必要。</p> <p>また、家庭学習の習慣化を促す授業づくりを目指し、公開授業・研究を通じて、授業改善を図るなど、具体的な改善に取り組んでほしい。</p> <p>TPOを意識した行動ができる生徒が増えてきており、学校の指導により高校生活を送る上での自覚は十分育まれている。事故の発生場所などを地図付きで配信することで家庭でも通学路の変更の検討など具体的な事故防止に取り組むことができる。スタジアムのサッカー部のマナーなど部活動での規範意識の醸成が図られている。物流倉庫のオープンで周辺の交通量が増えているので更に注意してほしい。校内に消毒用アルコールを常設してほしい。</p> <p>評価指標として具体的なターゲット大学を設定して成果を出せたのは非常に良かった。次年度以降の継続的な取組を期待したい。チャレンジ検定など具体的でわかりやすい目標設定は生徒の励みとなるとともに、受験の強みにもなる。</p> <p>学校からの進路関係資料を見ていない保護者が4割いるなど、家庭でのかかわりを改善することで、家庭での学習習慣の定着や学力向上につながるのではないかと、部活と学習の両立を意識させるためにも、1・2年での進路補講をお願いしたい。</p> <p>HPが頻繁に更新され、保護者が学校の様子を知ることができた。また、学校案内も在校生や卒業生の活躍を中心にまとめられており、中学生や校外の方へ学校の魅力が十分に発信されている。この成果が志願倍率に反映された。新制服を着た新入生がどのような風を吹かせるか楽しみである。</p> <p>この1年で学校内の学習環境が大きく変化しているのを感じている。今後はこの環境を用いてどのような授業や教育活動が展開されるのか楽しみである。</p>